

CPhI Japan 2013 開幕



開会式典で行われたテープカット

化学工業日報社、UBMジャパンなどが主催する「国際医薬品原料・中間体展（CPhI Japan 2013）」

が24日、東京ビッグサイトで開幕した。24万国・地域から416社（うち海外234社）が出展し、最新の製品・技術・サービスを日本市場に紹介する。26日までに1万5000人の来場を見込んでいる。

（関連記事9面）

11回目を迎えるCPhI

Japanは、これまでに開催規模を着実に拡大。「製薬業界受託サービスエキスポ（ICSE Japan）」「原薬・中間体 機器/装置展（PIMEC Japan）」「バイオファーマジャパン（BioPh Japan）」に加えて、昨年からの「ファーマテックジャパン（Pharmatec Japan）」も併催されている。国際ネットワーク構築に向

化学工業日報社など主催 東京ビッグサイトで26日まで

けたパートナーやサプライヤー発掘の場としての位置付けも年々高まっている。今回はスコットランドパビリオンが初出展し、製薬メーカーに新たなサプライヤーを紹介する。

出展社プレゼンテーションや講演、コンファレンスなども充実。150を超えるセミナープログラムにはバイオ医薬品やシエネリック医薬品、ドラッグデリバリーシステムといった業界トレンドに関するテーマも目立つ。

開会式典では主催者を代表して化学工業日報社の織田島修社長、UBMジャパンのクリストファー・イブ代表取締役があいさつ。織田島社長は「日本の製薬産業は明るい展望が開けており、化学大手などもライフサイエンスを重点分野に位置付けている。出展各社のビジネスがさらに活発化することを願っている」と述べた。